

用瀬町には、平安時代から伝えられている流しびなの風習がある。

この風習は旧暦の3月3日に紙と土でつくったひな人形をひし餅、あら、桃の小枝とともにさん俵に乗せ、人の災厄や心のけがれを人形に託して、町の中央を南北に流れる千代川に流す行事で、用瀬に古くから伝わる素朴な風習である。

用瀬町では、この流しびなの行事を用瀬町のシンボルとしてながく保存するため、「用瀬町民俗保存会」を発足。民間団体等と併せて護岸、張芝などの維持管理を行っており、行政・住民が一体となってこの伝統行事の場である千代川の整備を進めている。



所在地 鳥取県八頭郡用瀬町用瀬中筋川端
地先

諸元 玉石コンクリート張：延長72m、
面積：601m²、
鉄骨造り三角柱：高さ5m